



大館市の未来を拓く公立保育園の使命と役割

～満5歳すてっぷ相談、子どもハローワーク等の取組から～

大館市公立保育園長会 with 子ども課子育て支援係
大館市立釈迦内保育園長 佐藤 栄吏子
大館市子ども課長補佐 石川 恵美子

1 はじめに

大館市では、保育所保育指針改定や社会情勢等の様々な変化の可能性やニーズへの対応の為に、平成21年度より10年先の保育体制にも柔軟に対応できる市独自の新たなシステム（体制、組織、機能）の創造を目指してきた。これまで、人材の育成、組織力の強化を重点に、また、「公務員保育士」として市行政と協働しながら市全体を広い視野で捉え、子どもの育ちを長い目で見通した方向性を示す役割を模索する等、新たな保育・教育に対応する公立保育園の基礎体力作りを行ってきた。その中で、職員の意識改革が図られ、人的・物的環境の重要性を認識し、子どもの最善の利益を考慮する保育を第一に考えるようになった。また、それぞれの立場で、行政組織の一員としての自覚や責任感が芽生えてきた。

しかし、子どもの育ちという面では、家庭の養育力の低下、長時間保育に伴う子どもの情緒の不安定、心の育ちの未熟さ、家庭生活における経験不足もあり、気になる子は増加傾向にある。園内支援体制の構築を図り取組んできてはいるが、専門的な、連続性のある支援体制の充実や家庭の養育力の向上が課題である。

また、公立保育園には、人材育成の役割を担うよう機能を高めていくことや、市全体の保育・教育のリーダーとしての役割を自覚し、必要性を実績で示すことが求められている。

基幹保育園としての役割を担えるような取組みをしている中から、特別支援教育の体制作りとしての満5歳すてっぷ相談と、次世代育成支援としての子どもハローワークの取組を紹介したい。

2 研究内容

(1) 満5歳すてっぷ相談の活用

就学を見通し、集団への不適応や人との関わりの苦手な子の早期発見・早期対応、保護者には生活習慣作りについての啓蒙を図ることを目的に、基幹保育園の一つである有浦保育園を会場に、市内の満5歳を迎えた全ての児童と保護者対象に毎月実施している。担当者は、大館市立総合病院医師、公立保育園発達支援コーディネーター（各園の主任）・臨床心理士、保健師、教育委員会職員・教育専門監等35名程度である。



内容として、子どもは、個別検査や集団遊びなどを行い、保護者は、子育て学習会に参加する。また、希望者には、個別の相談を実施し、相談内容に応じて医師や保健師、臨床心理士、教育専門監等が担当し、子育て支援の一翼を担っている。各施設にはすてっぷ相談の結果を報告し、保育に活かしている。また、すてっぷ相談の経過児を教育専門監や教育委員会スクールカウンセラー、就学支援員、特別支援教育アドバイザー、また、平成24年度より、福祉課（現子ども課）に配属された臨床心理士・巡回支援専門員が巡回訪問し、経過観察・助言指導を行なっている。

また、就学時健診やすてっぷ相談の経過児を対象に、保護者の希望により、幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」が実施された。25年度は、申込が多く、9月から7会場において48名が通級している。今年度に入り、小学校を臨床心理士、就学支援員が訪問し、子どもの姿からすてっぷ相談やぐんぐんの取組みにおける成果や課題の洗い出しをしている。

(2) 子どもハローワークの活用における小・中学生の保育体験

これまでも実習や職場体験の受け入れを快諾してきたが、自主的で継続的な活動、発展につながらなかった。公立保育園では、「子どもハローワーク」事業を積極的に活用し、継続的な活動へつなげ、次世代育成支援を図りたいと考えた。乳幼児に触れる体験により、



子どもの可愛らしさや命の大切さを実感できる機会となっている。保育に対して興味を持ち、リピーターも多い。園の子どもたちも小・中学生の来ることを待っていて、うれしさをストレートに表現する子どもたちの姿がまた大きな喜びや励みになっているようにも思われる。また、間もなく親となる中高生が、日常的に保育園に足を運び、乳幼児に触れる機会を持つことは将来的に虐待防止につながるものと思われる。また、親となり、育児不安等がある場合に、保育園は気軽に相談に足を向けられる場所でありたい。お手伝いをしてもらうだけでなく、受け入れ側として次世代育成に重きを置いた計画的な受け入れ体制作りが必要と考え、今年度、公立園長会で「子どもハローワーク受け入れマニュアル」を作成した。

3 成果と課題

(1) 特別支援教育の体制作り

- 関係機関とのネットワークを広げ、協働・役割分担を明確にしたことにより、途切れないライフステージに応じた支援ができるようになった。
- 機能する、途切れない特別支援教育体制が、保護者にとってもより見える、分かる、安心できるものとなるよう工夫、周知していくことが求められる。

(2) 次世代育成支援の取組

- 小・中学生にとっては、乳幼児の実態を知ることができ、相手の気持ちに思いを寄せて心を通わせていくことの心地よさや、自分が頼りにされ、必要とされているという実感を得る場となっている。体験を通して保育の役割や保育士の関わりを理解してもらうことで、次世代の親としての予備知識や心構えを知る機会となっている。地域に開かれた教育資源としての役割が担えているとの実感がある。
- 乳幼児の実態や保育の理解の機会となっているが、子育てをしている親の思いに気付く場作りをしていきたい。

4 おわりに

全国的に公立保育園の民営化が進む中、大館市は基幹保育園として4園を残すことにした。その意義を理解し、公務員保育士としての自覚を持ち、組織力を発揮できる園運営、時代が求める保育・教育にしなやかに対応できる保育士を目指し、努力をしていきたい。